

「武雄市図書館を、モデルにしているのですか？」

武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会 代表世話人 井上一夫  
はじめに

故郷・大分県のご婦人から原稿依頼があり、ゴールデンウィーク最後の日に書いている。どのようなことであっても、故郷から頼まれるということは嬉しいものである。それだけ今までに、何のお返しも出来なかった証でもあるのだが。

本文とも関連してくると思うので、最初に自己紹介をしておきたい。私は敗戦直後の昭和21年、日田市月隈小学校（現・咸宜小学校）に入学した。教科書も無く、毎日黒板に下げられた広瀬淡窓の“休道の詩”を音読していた。近くに淡窓図書館があり、その時期開館していたかは定かではないが、桑野さん？という館長か司書さんがいた。天体観測を得意にされていて、お言葉に甘えて夜、天体望遠鏡を見せていただいたことがある。私の図書館の原風景は日田淡窓図書館にある。

今、武雄市図書館のリニューアルオープンが、マスメディアに取り上げられ成功例のように持ちあげられている。その原因の一つに、一方向的で表層的な取材、無責任な報道内容にあるのではないかと思う。そのことからこの稿で、少しでも実態を知っていただきたいと思っている。

わが市長は、武雄市図書館を今からの日本の新しい図書館のロールモデル、武雄市政を地域主権時代の地方自治ロールモデルと広言（公言）している。その二つについても相当危ういと考えているが、時間経過と共にそのことも明らかになっていくだろう。何れにしても、そこまで言わせることについて一市民として責任を感じないわけではない。

故・筑紫哲也が日田の自由の森大学で、いつも言っていたことは「言論の自由」を無くしてはいけないということであった。そのことを、日々反すうしながら市民の会の活動を続けている。

## 1、私たちの図書館・歴史資料館のこと

武雄市図書館・歴史資料館（以下、両館）は、2000年10月に竣工した図書&歴史の複合館である。設計は、館関係で日本有数の建築事務所・佐藤総合計画で、当時の佐賀県快適建築賞・特別賞を受賞している。ソフト的にも特別に瑕疵が有るわけでは無く、オープンから10年余、今から実力を発揮する時期にあった。特に、蘭学館は日本近代化の夜明けをリードした武雄領主・鍋島茂義侯顕彰と共に、日本最初に鑄造された大砲（臼砲）や、地球儀や天球儀や測量器具など日本を代表する蘭学資料が展示されていた。

現在、九州国立博物館で江戸のサイエンス～武雄蘭学の軌跡～（5月16日～7月7日）が開催されていることから、その価値評価が高いことがご理解いただけると思う。

このところ、MLA連携が言われ始めている。博物館（museum）図書館（library）、文書館（archive）を相互に結びつけ、社会的記憶装置として共通性・重要性が議論されるようになった。武雄市の両館はその二つを先取りした複合館で、文書館機能を付加すれば

MLA 連携が見事に成立する先進的な取り組みであった。特に、地域主権・地方自立の時代を迎え地元情報を収集・整理し市民に提供していくことは、内発的市民力を醸成していく上で欠かせない MLA の仕事であった。さらに、文書館に行けば全ての行政情報を得ることができる、その環境を行政が構築する事で初めて市民協働が始まるのである。

## 2、暴走する？武雄市政

2012年5月、武雄市長は東京でカルチャア・コンビニエンス・クラブ（以下 CCC）代表と共同記者会見し、武雄市図書館の指定管理者に CCC を特命することを発表した。市民にとっては寝耳に水の話で、まさか教育施設である図書館を、それも東京の業者に一社指名で委託する事は無いと考えていたのである。その後も、全市民的な説明は行われることなく今日に至っている。

地方自治が果たすべき統治三原則（説明責任・透明性・情報公開）は、武雄市政には見られないのである。市長になったからは、フリーハンドで行政運営できる・異論があれば選挙で落とせ、が彼の論理のようである。教育委員会も市議会も意のまま、むしろ両者が暴走に油を注いでいるように見えてくることも少なくない。

このような市政運営が、本当に地域主権時代の地方自治のロールモデルになるのであれば、わが国は「元来た道を辿る」ことを危惧しなければならないだろう。

## 3、壊された私たちの美しい図書館

それでは、両館がどのように壊されたか見てみたい。両館は歴史資料館（蘭学館を含む）と図書館とその部分をサポートするバックヤード（事務室・館長室・閉架書庫など）と大きく3分割されていた。特に開架式書架は大きな空間の1階に配置され、車椅子でもベビーカーでも十分回れる環境で、書架の高さも1,5m以下で誰でも本を取り出せるようになっていた。蘭学館は、武雄蘭学の常設展示館で外壁をオランダタイルで仕上げ、2階まで吹き抜けで余裕のある空間構成がされていた。

その全体の中に、新たに蔦屋書店・DVD&CD コーナー・スターバックスコーヒーが加わることになった。増築もなく限定された空間の中で、どこかを圧縮しなければ全体が収まる筈がない。結果どうなったか？1階の開架書架の部分の多くを、蔦屋書店とスタバコーヒーが占め、さらに蘭学館全体が蔦屋書店の DVD&CD コーナーに占拠されてしまったのである。

その結果、今までの図書館・開架書架の部分は、面積を極端に削った天井の低いバックヤード部分に移された。さらに、不足する書架面積は2階に閲覧バルコニーを増築し、その壁に≒4mの高い書架を設けそこに収められてしまったのである。

事務室・館長室などのバックヤードは前の≒1/5に減少し、館長室は無くなり事務室は職員一人当たり≒1㎡、便所・手洗いは4か所が1か所になり、閲覧者・職員・子どもたちと共同で、前の閲覧者用トイレ1か所に集中されてしまった。さらに、それらの事業

費に、昨年度市費 4, 5 億円が費やされてしまったのである。

#### 4、新しい武雄市図書館の市民評価

武雄市民の声を、市内のご婦人からいただいた F A X の内容で紹介しておきたい。

「私は、頻繁ではありませんが、図書館に少しだけのんびり、ゆっくり、時を止めて、本を読み、自分を見つめ、子ども孫のこと、家族のことを考え、そして少しだけホッとします。特に何かを読みたいではなく、目についた本を手に取り、思いかけずに深い言葉に出会い、その言葉に支えられたりします。子どもや学生さんを見かけると、思わず「しっかり勉強してね」とエールを送りたくなります。図書館はそんな気持ちにさせてくれる空間でした。孫も夏休み、冬休みは、毎日のように図書館で宿題をしていました。図書館と聞くだけで、無条件で安心し、送り出せました。これからは、素直に喜べないでしょう。大人の責任として、子どもたちを守り、これからの武雄図書館を見守り続けて行こうと思います。」

静かだが、心うつメッセージである。ここに新たな言葉を足す必要はないだろう。私たちの美しい図書館は、このような普通の市民ユーザーに支えられていたのである。この F A X をいただいた時、この人たちが再び図書館に来ていただくように、その道筋を付けなければならないと強く思った。

リニューアルオープン一カ月、来館者 10 万人を超えたという新聞報道がある。数字は間違いないと思うが、その情報にバイアスがかかっているのではないか。なるほど、建物は武雄市図書館であるが、その実態は蔦屋書店・DVD・CD コーナー・スタバーコーヒー店である。ブランド志向を否定するつもりはないが、真面目に本に向き合おうとしている人が何人訪れているだろうか？武雄市図書館という施設、その入館者の内容を精査してみる必要があるだろう。

おわりに

あまりにも問題や要素が多岐にわたり、とても書きつくす事ができない。このところ聞えて来ることは、「酷いね、これは図書館では無く本の倉庫だよ、こんな事務室空間で検本や配本作業は出来ない、騒がしくてとても本を読む環境では無い、無料が原則の図書館で本を買ったりコーヒーを飲む空間が主を占めるってどういうこと、子どもたちは i P a d や T カードが使える貸出機に興味があるようだが本当に本を読んでもくれるの、貸出履歴が T カードから情報流出するリスクはないの、レファレンスサービスや研究資料を求めるユーザーは利用しないだろう、」等々である。

一方で、全国から行政視察に集まる首長や議員や自治体職員は、市長の一方的な説明？に惑わされてか、賛意を表す意見が多いようである。地方政治を行う人たちがどれだけ図書館のことを学習しているだろうか、自治体職員が図書館で政策立案・レファレンス依頼したことがあるだろうか？視察目的は、いかに財源をカットするかであり、市民の質を高

めることなど最初から考えていないのではないかと疑っている。

大分県下で武雄をモデルにするような自治体は出ないと信じたいが、もしそのような事例があれば是非現地を見ていただきたい。そして、一方向的に行政の説明を聞くだけでなく、私たちが市民レベルでどう評価しているか、何を求めているか、そのことも合わせてヒアリングしてほしい。

佐賀県下にもモデルになる図書館はある。それは武雄市に隣接する「伊万里市民図書館」である。車で20～30分の移動時間であり、武雄・伊万里を見比べて政策に活かす事をお勧めしたい。紙幅がなく紹介できないが、伊万里市長の図書館にかける思いを是非読んで欲しい。武雄市の図書館政策は、このまま行けば愚民化の道を辿るだろう。

文中ストレートな表現があることについては、故郷からの依頼でもあり、可能な限り分かりやすく表現したかったことの意味でご理解いただきたい。

私自身、国・市役所職員・保育現場を体験してきた一市民である。一貫してまちづくり活動をしてきた体験からこの文章を書いているが、故郷を思うこと・住む町のことを思うことは人後に落ちないと思っている。

急速な人口減少社会の中で、「地域を力強く担う人材が、図書館から育てほしい！育てなければならない！」と強く思っている。

故郷の健やかな発展を心から願っている。ありがとうございました。

(アクセスしていただきたい参考情報)

- 1) 伊万里市長の部屋 <http://www.city.imari.saga.jp/> 13年1月7日 市長雑感
- 2) 学習する市民の会ウェブサイト <http://takeolib.sblo.jp/>
- 3) 佐賀新聞ばってんがサイト <http://talkbar.saga-s.co.jp/> 井上一夫分
- 4) 月刊社会教育13年4月号 武雄市民の知的拠点はどのように奪われ、、
- 5) みんなの図書館13年2月号 武雄市新図書館構想・情報セキュリティに関し、、
- 6) 出版ニュース12年10月上旬号 P42 出版界スコープ

# エポカル武雄 平面図

